

玉里地区小中一貫教育学校

【第2号】

建設準備委員会だより



このたよりは、玉里地区の小中一貫校の開校に向けた準備の情報をお届けするものです。今号では、第2回建設準備委員会の様子をお送りいたします。

第2回建設準備委員会を開催

11月6日（金）に第2回建設準備委員会を開催しました。今回は、水戸市総合教育研究所 所長の小野 司寿男 先生をお招きし、県内初の小中一貫校である「水戸市立国田小中学校」の小中一貫教育についての講話をいただきました。



水戸市立国田小中学校について

名称 水戸市立国田小中学校

住所 水戸市下国井町2595-1

特徴 茨城県内初の小中一貫校（平成7年に小中一体型校舎完成）

平成26年度からは幼小中が同じ校舎で生活。

入学式や運動会などの学校行事を幼小中合同で実施。

幼稚園から英語活動の時間を導入。

小学校5年生から部活動の早期体験を実施。

小学校5年生以上（ミドルグレード～）は、中学校の専門教科の免許を持った先生が教科毎の授業を実施。

9年間の流れの中で授業計画を組むことにより、効果的な授業形態となっている。

※発達に合わせた4-4-1制を導入している。（9年間を一貫した特色ある教育活動の実施）

※子供達の身体的な発達が昭和23年と平成25年では2年程度早まっている。思春期の到来も早まっているのではないかとされている。



国田小中学校校舎外観

9年間を一貫した特色ある教育活動

ベーシックグレード
小学校1年生～4年生
学びの基礎力の育成

ミドルグレード
小学校5年生～中学校2年生
社会的実践力の育成

コンプレッショングレード
中学校3年生
国田教育の集大成

国田小中学校における小中一貫教育の効果

- ・学力の向上
- ・学校不適応（不登校）の大幅な減少
- ・問題行動（暴力行為、器物損壊等）の減少



主な質疑

小野先生には講話をいただいた後、参加した委員からの質問にお答えいただきました。その主な質疑の内容は、以下の通りです。



Q. 小中一貫に伴い、学力が向上したという話があった。どのくらいの向上率だったのか。

A. おおよその話になるが、全教科18%から20数%アップしている。

Q. 不登校が減った原因は何なのか。

A. 何人もの人が丁寧に子供に向き合えるようになったということ。色々な先生が、繰り返し様々なところで見ることが可能。子供達の先の道が開けるようなチャンスが多く得ることができるようになったということではないかと思う。



Q. 中学生が勉強したい時に小学生がいると、集中できないのではないのか。

A. 中学校と小学校の授業を行う階が分かれ、さらに校舎が左右に分かれている。あまり授業中に集中できないということはない。それは校舎の造り方によるかと思う。

Q. 小学校の45分授業と50分授業の違いは気にならないのか。

A. あまり気にならない。チャイムを使わなければ良いこと。



Q. 小中一貫の課題はあるのか。

A. 小中一貫のシステムに関する子供と学校の課題は、あまりないと思う。課題は、教育委員会側にあり、教員の配置やカリキュラムをどのようにして地域に合ったように作るかといったものがある。



Q. 小中一貫校ということなので、親も不安であり、子供達も在学中に一緒になるため、不安になっていくと思う。そういった子供達に対して、不安にさせないようにするには、どのようにしていったら良いのか。

A. 学校が小中一貫校になったとしても、授業や遊び、部活などに大きな変化があるわけではないということ。小学校と中学校が一緒になり、利便性が高くなる。心配ないということを伝えていただきたいと思う。



※講話の内容は、議事録として記載しております。議事録は、市のホームページ（以下のURL）で公開しております。

<http://city.omitama.lg.jp/8106.html>

今回の準備委員会は、今回講話いただいた「水戸市立国田小中学校」の視察を予定しております。

発行：玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会

（事務局）小美玉市教育委員会

学校教育課 学校づくり推進室

〒311-3492 小美玉市小川4-11

電話 0299-48-1111（内線2216・2212）

Eメール gakko@city.omitama.lg.jp